

令和3年度 大阪市立生涯学習センター運営評価委員会 要旨

1 日時 令和3年7月27日（火）午前10時～午前12時00分

2 場所 総合生涯学習センター 第1研修室

3 出席者

【委員】赤尾勝己委員（座長）、出相泰裕委員、岩槻知也委員、西本聡子委員、
浅田真理子委員（宮川榮子委員代理）、橋本佳子委員

【事務局】総合生涯学習センター：渡部所長、川崎副所長、竹内企画推進課長、糸井事業主幹、管理係長
企画推進係長、連携推進係長、管理課係員

阿倍野市民学習センター：樋川所長 難波市民学習センター：高貫所長

【オブザーバー】大阪市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習担当 担当係長、係員

4 次第

(1) 開会

(2) 出席者紹介

(3) 案件

① 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた生涯学習センターの取り組みについて

② 生涯学習センター事業の評価について

(4) その他

(5) 閉会

5 会議概要（主な発言等） *要旨を表すため一部省略等を実施

◆案件（1）新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた生涯学習センターの取り組みについて

（委員）利用が減ってしまったことは、致し方無いことだが、収入減になった部分について、財政的な問題はどうか。

（事務局）令和2年度については大阪市から補填があったため、赤字にはならなかった。

（委員）利用料半額の期間が3月31日までで、それ以降は普通に戻ったということだが、そのタイミングできりかえた理由は何か。

（事務局）3月31日までは大阪市から文書で利用料半額の対応指示があったが、4月1日以降は大阪市から指示がなかった。

◆案件（２）生涯学習センター事業の評価について

分野１：情報収集・提供と学習相談

（委員）今後の改善の方向性案として、３館のHPについて見やすく魅力アップを図るため、全体の見直しと多言語化、やさしいにほんごへの対応を検討としているが、多言語化はどのような言語に対応しているのか。

（事務局）中国語の簡体字と繁体字の２種類、それから英語、韓国語の４言語である。

（委員）多言語の件について、最近大学ではベトナムからの留学生が多く、技能実習生もベトナム人が多い。技能実習生は日本語に苦労していると考えられ、今後、対応も考えていかなければならないと思う。具体例では、日本語教室にベトナム人が急にたくさん来られても、言語が通じなくてうまく対応できないといった課題があるので、日本語の技能が高い留学生がチューターとして入っていただくと、受講者のケアができるのではないかと思う。

もう一つ、Facebook、LINE等SNSを活用した各種情報発信とある。若い人はFacebookよりTwitterだと思うが、Twitterを入れることについてはどう考えているのか。

（事務局）ベトナム語の件については、参考にさせていただきたい。

Twitterは即時性があり、有効な媒体だと考えているが、一方でチェックが働かないという問題がある。外へ出す情報というのは、複数のチェック後、発信するというプロセスが必要だと考えており、効果や課題等を総合的に考慮すると、現段階での導入は難しいと考えている。

（委員）評価については、基準がある程度決まっていたと思うので、資料に表記し明確にしてほしい。

もう一つはHPの見やすさという点で、多言語化、やさしいにほんごへの対応の検討ということがあったが、ふりがなをつけるということができるとどうか。多言語化は重要だと思うが、ふりがながついていなくても、少しアクセスがしやすくなると思っている。

（事務局）HPのふりがな記載については、改修の際にぜひ検討したい。

評価の基準については、前年度の運営評価委員会で◎、○、×で提案していたが、目標を下回った時に△がつくものもあるのではないかという意見をいただき、今回は４段階にさせていただいている。目標として前年度以上や、何%以上という目標を達成していれば○、大きく目標を超えていれば◎としている。下回っている場合は本来×だが、コロナの状況下では、努力しても達成が難しかったという観点から、事務局案として、下回っているが△と評価している。評価の修正があれば、ぜひ委員の皆様から意見をいただきたい。

（委員）評価が違うということではない。目標に達しなかった場合を△としているということが、どこかに表記されていたらわかりやすいと思う。

分野2：現代的・社会的課題に関する学習機会の提供

(委員) 今後、SDGsの視点から取り組むことが記載されているが、3センターでは現段階でSDGsに関する講座に取り組んでいるか。

(事務局) 阿倍野市民学習センターでは、昨年度、環境問題を含めて食品を無駄にしないという取り組みで、「くらべてみよう！わたしたちの”ごはん”と忍者の”ごはん”」という講座を子ども向けにライブ配信で行った。今年度は手ぬぐいを使って、ゴミ袋やレジ袋を無駄にしないという内容で計画している。

(委員) 令和2年度からオンラインを始めたとのことで、市民セミナーもオンライン講座へ変更と記載があるが、ライブ配信をしたのか、あるいはオンデマンドで実施したのか。

(事務局) オンラインの講座について、市民セミナーはライブ配信で実施した。その他、大学連携事業ではオンラインでの実施も多く、大学の先生がライブ配信で講座をすることもあった。企業等との連携事業「暮らしの安心災害対策セミナー」もライブ配信で実施した。家庭教育振興事業では、英語も学びつつ、親子で遊ぶという内容で、会場参加で対面もやりながら、ライブ配信でも参加いただくといったことも実施した。また、資格取得講座では対面プラス後日録画配信（オンデマンド）という形式で実施した。色々試してみたが、対面の方が、満足度が高いという印象がある。一方で録画配信は都合の良い時に見ることができるという意見もある。対面とオンラインにはそれぞれ利点や特性があるので、内容によって実施方法を組み合わせることによってよい効果を生むよう考えている。

(委員) オンデマンドやライブの授業も、それぞれの講座内容でどちらの方がベネフィットが大きいかという見方があると思う。内容によって実施方法を考えていただければと思う。

(委員) 今、大学では、ポストコロナを見据えて、今後、オンデマンドにするか、対面の授業をどのように組み合わせていくかという検討をしており、伝達系についてはオンデマンドが良い、交流が必要な場合は対面が良いといったように、内容によって実施方法の組み合わせが変わってくる。この組み合わせについて、これから色々な学習施設が考えていかなければならないと思う。

分野3：人材養成・研修

(委員) 生涯学習推進員研修が今回、動画視聴になったが、コロナ禍で来づらい中、DVDやインターネットで受講できたのは良かったと思う。推進員に新しくなる方も、昔からしている方も年齢が高くなってきているので、ハードルが高いかと思っていたが、利用の数字を見ると、かなりの方が見られているので驚いた。今年度もおそらく同様の形式になると思うが、これで良いと考えている。また、こういった場所に来て見たいという方もいらっしゃるので、センターで見ることがあることは良いことだと思う。コロナ禍で大変だったが、研修についてはすごく良かったと感じている。

(委員) コロナ禍のため識字・日本語教室が開かれておらず、ボランティア養成講座を受けた後の活動の場が少ないということであるが、これはある意味、致し方無い。

一方、講座の中で教室の様子がわかるビデオを上映されたということで、少なくともそういうことがあれば違おうと思った。私の大学でも教育実習をしており、附属小学校に行くことになっていたが、小学校が直接の実習を受け入れられないということになったため、オンラインで実習を行った。現役教員の映像を見せて、それを見ながら色々質問をする。逆に自分達がした実習の場면을、先生方に見て講評してもらおうといったものである。リモートでも映像を上映して、それについてどう考えるかということ議論することはできると思う。さらに講師が経験豊富であれば、それを見ながらコメントしていただくこともできると思う。

(委員) 私事だが、地域で推進員を今年から始めることになり、今回インターネットで見ることにした。見やすかったのだが、印象に残りづらいと感じたため、何かフォローしていただけることがあれば助かるのではないかなと思う。テストではないが、講座の中で理解度がわかるものがあれば良いと思う。〇か×にできるような質問も難しいと思うが、何かクイズ形式のことがあれば楽しいのではないかな。

(事務局) こちらが一番伝えなかったことをまとめて、最後に振り返ってみることで、自分の中に蓄積するということは参考にさせていただく。

令和2年度、動画研修で講師をしてくださった委員に、どうだったかお尋ねしたい。

(委員) 講師としてはカメラに向かって話していても反応がわからないので、ライブの方が嬉しい。やはり、生涯学習推進員研修は対面が一番良いという感じがしている。動画配信だと、本当に理解されているかこちらもわからないので、クイズのようなフォローも補助的に考えても良いかなと思う。

分野4：企画開発とネットワーク

(委員) 大学コンソーシアム大阪では、去年、講座を全部オンラインに切り替え、何とか手探りでやってきた。令和3年度に入り、オンラインの展開の工夫や対面など、ポストコロナを見越した講座の実施方法の選択に頭が向くようになってきた。今、検討しているのは、新卒3年目くらいの方をターゲットにして、改めてビジネスマナーや、社会人として活躍するにあたり、どういうことが必要なのかという講座を展開したいと考えている。その辺りについて、生涯学習センターも既に着手している部分もあるかなと思うが、連携したいと考えている。

(事務局) 難波市民学習センターでは、昨年まさにビジネスマナー講座というスキルアップの講座をオンラインで開催した。対面でなくても理解できる内容で構成し、例えば電話の取り方では、実際に電話機を横に置いて、電話をとりながら説明をする等して、受講者からも好評をいただいた。今年度も実施を予定している。

(委員) NPO・市民活動企画助成事業のところで、「実施団体を助成、活動支援し」とあるが、この他にもネットワーク・ラボ登録団体が講座を実施したいというときなど、具体的にセンターはどのように関わっているのか。

(事務局) NPO・市民活動企画助成事業に関しては上限を定め金額的な支援をしている。その他、講座を実施される際には、場所の提供やチラシの作り方といった広報の仕方をアドバイスしている。団体の交流会では、昨年度はミニ講座ではあるが、グループ活動の支援になるような講座を提供した。細かな講師の設定は、グループによって抱えている問題が異なるため、その都度職員と相談し、支援をしている。

ネットワーク・ラボ登録団体の支援に関しては、総合生涯学習センターにネットワーク・ラボのブースが4つあり、場所の提供という支援をしている。ネットワークサロンは、各グループが学んでいる得意なことを講座として市民の方に提供しているもので、講座を組む際に、どのような内容にすれば良いかという相談を受けている。また参加者を集めるのはセンターが担当しており、広報の支援もしている。交流会ではグループ同士の交流が生まれるようにセンターがコーディネートしている機能もあり、多岐にわたることができる限りのことをしている。

分野5：区や地域における生涯学習の支援（「教育コミュニティ」支援）

(委員) 大阪市では地域-区域-広域という三層構造の中で区の役割が非常に大きくなってきており、生涯学習センターとどう有機的に連携しあうかが大事だと思う。そういう中で、3センター地域支援担当者会議という言葉があるが、総合生涯学習センター、難波・阿倍野市民学習センターで地域担当の職員を置いているのか。またどのような活動をしているのか。

(事務局) 3センターそれぞれに地域支援担当者を置き、会合を行っている。各担当が地域の生涯学習情報を集めて、スタートルという新聞を発行し、定期的に地域の生涯学習情報を発信している。

大阪市では区長の権限が強くなり、区独自の取り組みを行っている。私も3区ほど職員として経験をしたが、それぞれの区で状況が違っている。私が担当した区では、定期的に総合生涯学習センターや市民学習センターの担当者に来てもらい、事業の紹介をしていただいた。区の職員も異動で頻繁に代わり、生涯学習を初めて担当する職員もいるため、非常に役に立っていると思う。今年度も生涯学習推進員の会議が休止していたが、ようやく動き出したので、3センターで分担して区の会議に出向き、事業の紹介をしていきたいと思っている。

定期的に生涯学習センター職員と区の職員が一緒になって機会を持ち、何か一緒にできないかと働きかける活動をしていく必要があると思う。我々もセンターの立場から区へ積極的に働きかけていきたいと考えている。

(委員) 当区では、生涯学習推進員の区連絡会は、今年度は2回ほど、各校区1名に人数を制限して開催した。全員が揃うということは、令和2年4月に緊急事態宣言が発令される前から一切ない。コロナ禍で変化したのは、今まではほとんど電話連絡だったものが、LINEアプリでグループLINEをつくり、連絡を取り合うようになったということ。最初は大変だったが、今年度はほとんどLINEに入ることができた。私が区代表を務めており、色々と情報発信をするとすぐに反応がある。みんな仲良く楽しく情報共有をしている。

分野6：利用促進とサービス向上

(委員) 貸室利用率について、令和元年度に比べ令和2年度では大きく減少している。状況について難波

市民学習センターを例に説明を願いたい。

(事務局) 令和元年度の末から続いているが、令和2年度においては、コロナウイルスの感染状況が悪化し、緊急事態宣言が2回発出された(それぞれ延長もされた)。臨時休館や開館時間の短縮等があり、利用者にとっては施設が開いているのかどうか、何時まで使えるのかがよくわからない状況になってしまった。定期的に利用する団体については、活動が著しく不安定になってしまったということから、活動を休むという団体もかなりあった。また特に発声を伴うコーラスや楽器演奏等を行う団体はグループ内感染を懸念され、活動がほとんど停止してしまい、再開できない状況が続いており、利用率がかなり下がってしまったと感じている。それに加え、高齢者利用もかなり多く、電車を使ってセンターに来る場合に移動中の感染を懸念して来づらいという状況もあると聞いている。そういったことも含め、今後、グループの活動の安全を確保することと同時に、新しい団体へのPRも考えていきたい。

(委員) コロナの状況がどうなるか不明確なので、現実的な目標値にした方が良いのではと考えている。コロナの状況が一段落したら、また目標値を上げていけば良いと思うが、現実的な目標値をどのあたりにもっていきのかというのは考えなければならないと思う。目標値の修正ということがあってもよいのではないか。

(事務局) 所管局である大阪市教育委員会事務局とも協議させていただき方向を進めたい。

(委員) 課題と改善策にあるWi-Fiの設置だが、どのような時に使われるものなのか。

(事務局) 貸室を利用する団体が参加者に動画を見せる際に使いたいという要望が多い。

(委員) 教育委員会と継続的に協議を進めないと導入できない状況なのか。お金の関係なのか、それとも別の問題があるのか。

(事務局) 費用的なことが一番大きい。設備として例えばフロア全体を整備していただけるなら、その方が利用者にとっても便利だと思うし、将来的に長い目で協議していく必要があると考えている。早急に対応するのであれば、ポケットWi-Fiで対応していくのが現実的だと考えている。

(委員) 私自身、どうしても必要な時は、レンタルルーターを借りられるところが近くにあるので、利用者もそのような対応をすれば良いのではと思う。

(委員) 分野1～分野6まで、原案における自己評価について委員から異議等ないか。

(委員) 異議等がないようなので、この原案で私たちは了承する。

◆座長まとめ

分野1：多言語対応ではベトナム語の対応が重要。加えてベトナム人留学生の活用が考えられるのではないかと。

評価の基準については、資料に明示した方がよい。

分野2：オンラインに適した講座と適さない講座の境界をどこに設けるのかという点や、例えばオンデマンドと対面のような組み合わせもコロナ禍の中で考えていかなければならない。極めて教育観的な問題もあり、ポストコロナ禍を見据えて今後考えていく必要がある。

今はSDGsの講座がとても重要になっているが、まだ十分ではないように感じる。目標17を並列的に1つ1つを教えるのではなく1つの群としてどういう関係にあるのかという構造として把握できるような講座があるとよいと思う。

分野3：生涯学習推進員研修は理解度の面では対面が一番良いが、コロナ禍ではインターネットやDVDといった方法を選択できることが良かった。ただしインターネットやDVDの場合、本当に知識の定着ができているのかわからないため、知識の定着を簡単に試せるようなフィードバックを兼ねるクイズのようなものがあれば良いのではないかと。

分野4：市民活動の企画講座という、市民参画という観点から重要なところ。お金の補助だけではなく、例えばチラシの作り方であるとか、広報の支援等をセンターから行っていたということで、これからもぜひ大切にしてほしい。

分野5：大阪市では区の役割が非常に大きくなってきており、3センターと区の連携をこれからも強めていただきたい。

分野6：目標値を新たな状況の中で修正していく必要があるのではないかと。